

【Insectopia (インセクトピア)】とは： insect (虫) と utopia (理想郷) を掛け合わせた造語  
『蟲たちを含む、地球上に生きる全ての仲間が快適に生きることができる世界』を創るため、SHELLグループがお届けする情報発信ニュースレター。



## 気候変動で変わる、都市と生き物の関係

暑さや大雨など、近年は極端な天候を身近に感じる機会が増えています。今年の夏も、厳しい暑さに加え、東日本太平洋側でも降水量がかなり多くなるなど、変化の大きな季節となりました。こうした気候の変化は、生き物が暮らす場所や活動する時期にも影響します。気候変動によって変わりつつある、都市と生き物の関係について考えてみます。

### 気候が変われば、生き物も動く

気候変動に伴い、生き物にとって暮らしやすい環境も変化し、その分布にも変化が生じています。日本でも、南方系のチョウ類の分布北上や、モウソウチク・マダケの分布拡大など、さまざまな変化が報告されています。

環境が変われば、生き物の暮らしも変わります。そして、私たちが「害虫」と呼ぶ生き物も例外ではありません。これまで生息しにくかった地域が、新たな生息場所となる可能性もあります。

ただし、「温暖化になると、すべての害虫が増える」というわけではありません。都市化による生息地の変化や分断、あるいは外来種など、さまざまな要因が複雑に関係しながら、生き物の分布や生態系は変化していきます。気候変動に関する政府間パネル (IPCC) も、その影響は、生息地の喪失や分断、外来種など、ほかの人為的な影響と重なって生じるとしています。

### 「増える」だけではない、生き物たちの変化

ある生き物にとって暮らしやすい場所が広がる一方で、変化についていけず、生息できる場所を失っていく生き物もいます。

そして、生き物の変化は、その生き物だけにとどまるものではありません。自然界では、植物を食べる昆虫、その昆虫を食べる鳥、花粉を運ぶ昆虫など、多くの生き物が互いに関わりながら暮らしています。花が咲く時期と昆虫が活動する時期のずれなどが、生態系全体に影響する可能性もあります。

例えば、気温上昇などに伴って高山植物の開花時期が早まり、開花期間が短くなることで、花粉を運ぶ昆虫の発生時

期との間に「ミスマッチ」が生じるリスクも予測されています。こうした変化は、そこに暮らす生き物の顔ぶれだけでなく、生き物同士のつながりにも影響を及ぼします。

### 生き物の変化は、私たちの暮らしの変化へ

では、生き物の分布や関係性が変わると、私たちにはどのような影響があるのでしょうか。

私たちの暮らしは、食料の供給や水・大気の浄化など、生態系がもたらすさまざまな「恵み」に支えられています。生態系が変化すれば、こうした「生態系サービス」にも影響が及び、私たちの生活や産業へ波及するおそれがあります。

人と多くの生き物が共存する都市も、その影響と無関係ではありません。生き物の分布や行動が変われば、都市における生き物との関わり方も変化していくと考えられます。

### 「害虫」を、環境から考える

害虫が発生しているから「駆除する」だけでなく、なぜ、そこに現れたのか。その背景に、どのような環境の変化が起きているのか。そこまで捉えることが、これからの害虫対策には求められるのではないのでしょうか。

生き物と環境の変化を見つめ、発生しにくい環境をつくるという予防的な視点は、これからの都市において、より重要になっていくと考えられます。

気候変動下では、これまでのマニュアル通りの駆除では対応しきれない害虫の発生も想定されます。だからこそ、モニタリングを通じて発生の兆しを早期に捉える予防的な取り組みが、これまで以上に重要になっていくと考えています。



## 害蟲展season7を終えて

2026年7月から9月にかけて、東京・大阪の2会場で開催した「害蟲展season7」は、お陰様で無事に会期を終えることができました。

今年も全国から多くの応募が寄せられ、昨年を上回る応募作品の中から選出された20作品を展示。害虫や生き物をさまざまな視点から捉えた作品が集まり、多くの方にご覧いただきました。

東京会場では14日間で316名にご来場いただき、前年を上回る来場数となりました。また、来場者アンケートでは84.8%が「初めて」の来場と回答。害蟲展を初めて知る方、訪れる方にも、その輪が広がっていることを実感する開催となりました。

### 関係者が集ったレセプションパーティー

東京会場の開催前日には、メディア、スポンサー、入選作家をはじめとする関係者を招いたレセプションパーティーを開催しました。

会場では受賞作品の紹介に加え、審査員の舘野鴻氏を交えたトークセッションを実施。作品について直接講評をいただくなど、作品への理解をより深める時間となりました。懇親会では、TAKEO様ご提供のタガメサイダーやタガメカクテルで乾杯。バグズファーム様ご提供の多種多様な昆虫食も大人気となり、立場や分野を越えて交流が生まれる盛況なひとときとなりました。

### それぞれの「害虫」を見つめ直す

アンケートでは、展示に対する5段階の満足度で「5」が58.7%、「4」が32.6%と、合わせて9割以上の方から高い評価をいただきました。また、43.5%の方が、来場後に害虫へのイメージに「変化があった」と回答しています。そ



写真：レセプションパーティーの様子(東京会場：MATERIO base)

の背景を象徴するのが、来場者から寄せられた言葉です。「あなたにとって害虫とは？」という問いには、「人間の都合でフルモノにされた虫」「自然界では意味がある存在」「私にとって無害なら、それはただの虫」など、一人ひとり異なる言葉が寄せられました。

一般的にはネガティブに捉えられる生き物も、視点を変えて捉え直すことで、これまで気づかなかった価値や存在意義が見えてくる。本展が、そんな気づきや問いを持ち帰っていただく機会になったことを実感しています。

### 開催の意義と次への展望

害蟲展は、生物・命の美しさや有益な側面に焦点を当てた作品を通して、人と生き物の関係や「地球上のいのちの存在」について考えるきっかけをつくる公募展です。season7の開催を支えてくださった出展者、来場者、スポンサーをはじめ、すべての皆様に改めて感謝申し上げます。今後もさまざまな領域の方々とともに、多様な生物の存在意義を見つめ、新しい視点を生み出す場として、害蟲展を育んでまいります。

## 今月のInsect



写真/解説  
中峰 空  
8thCAL技術顧問  
真面目昆虫館館長



### シリジロヒゲナガゾウムシ

(尻白髭長象虫)

コウチュウ目ヒゲナガゾウムシ科  
学名：Androceras flavellicorne

体長6～8mmほどで、上翅後端と腹端の尾節板に淡褐色の模様があることからこの和名が付けられた。写真の個体は雄で、触角第5節から先が拡大して平らになっているのが特徴。成虫は枯れ木や枯れ枝の上で見られるが食性など詳しい生態はよくわかっていない。

## Information

### ●Pick up NEWS

シェルグループ代表・岡部が「from Foe to Friend—厄介者と人の関係を探る共同リサーチ」に登壇します！

岡部は、11月12日開催のセッション「厄介者と人の接点を作り直す」にて、「駆除の手前で何ができるか — 害蟲展と予防の設計から接点をデザインする」をテーマに登壇予定です。これまで取り組んできた『害蟲展』や環境衛生の現場での経験をもとに、「厄介者」とされる生きものと人との関係性についてお話しします。

主催：株式会社ロフトワーク

イベント詳細：[from Foe to Friend—厄介者と人の関係を探る共同リサーチ](#)



### Insectopia インセクトピアの配信登録はこちらから！

QRコードを読み取り後、登録フォームよりご登録ください。ニュースリリースや採用情報、イベントなどの最新情報を配信中です。

